

死亡労働災害多発警報

発令中

期間（平成29年3月22日から6月21日）



死亡労働災害が、一定期間に連続的、集中的に発生した場合に、早期に死亡労働災害を防止するため、「死亡労働災害多発警報」を発令するとともに、「宮崎労働局死亡労働災害多発警報発令要綱」を策定し、これに基づき死亡労働災害の再発防止を図ることとしております。

宮崎県における労働災害の現状

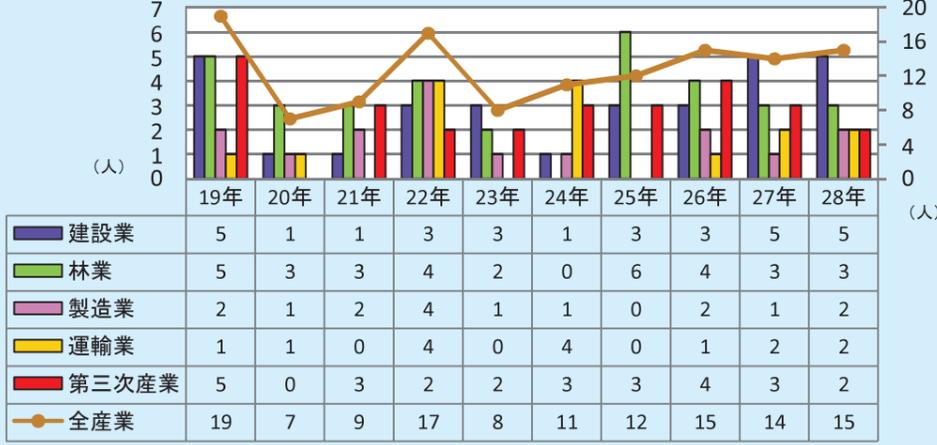
- 死亡災害は増減を繰り返しており、平成28年には15件もの死亡災害が発生した。また、平成29年2月までに連続して7件の死亡災害が発生したため、3月22日に「死亡労働災害多発警報」を発令した。
- 死傷災害は、長期的には減少傾向であり、平成27年は過去最少の災害件数となった。しかしながら、平成28年は、平成23年以来の1300件を超える災害が発生した。

労働災害死傷者数の推移

■ 休業4日以上の死傷者数



全産業及び主な産業別死亡者数の推移（全産業）



主要産業別死傷者数（休業4日以上）の推移



休業4日以上の死傷災害

事故の型別（H28年）

県内で、業種を問わず、転倒災害が発生しています。（平成28年**328件**）

滑り 踏み外し つまずき

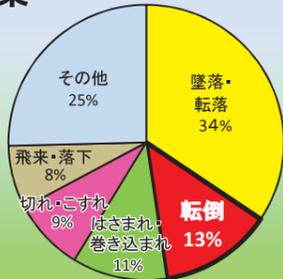


事業場にステッカーを掲示し、転倒危険場所を『見える化』しましょう！

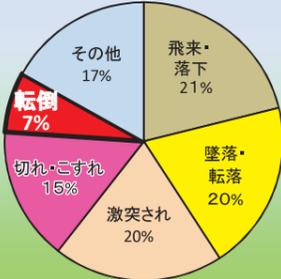


このステッカーは、「STOP！転倒災害プロジェクト」HPよりダウンロード出来ます。

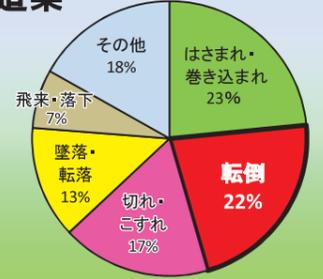
建設業



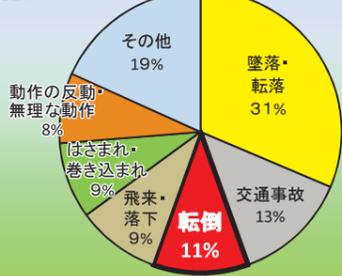
林業



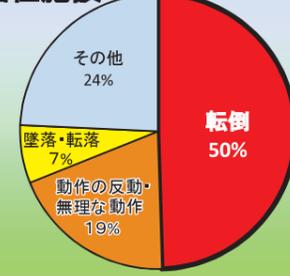
製造業



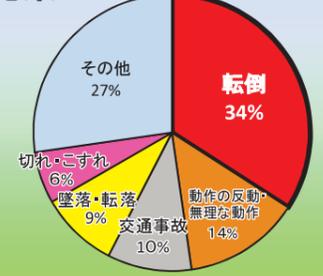
運輸交通業



社会福祉施設



小売業



平成28年死亡災害の発生状況

番号	業種	年齢	災害発生状況
1	木材・木製品製造業	30代	木材の上げ下ろしのためのテーブルリフターが設置された地下ピット（深さ約1m）内において、被災者は当該テーブルリフターの油圧シリンダーを修理していたところ、突然降下し始め、身体を挟まれた。
2	卸売業	20代	取引先への配達を終え、被災者はトラックを運転し会社に戻っていたところ、片側1車線の直線道路でトラックが横滑りし、道路脇の電柱に激突した。
3	木材伐出業	50代	被災者はチェーンソーを使用して、急斜面（勾配約50°）の立木の伐採を行っていたところ、バランスを崩し、急斜面を滑落した。
4	電気通信工事業	20代	既設鉄塔から新設鉄塔へ電線移設中、被災者は移設する電線の上（高さ約50m）で、当該電線に安全帯を掛け作業していたところ、電線を固定していた専用金具から電線が抜け落ち、電線とともに墜落した。
5	畜産業	40代	焼酎粕の入った貯蔵タンク（直径約2m、高さ約2.5m）から、ポンプを介して小分け用のタンク（約1m四方の立方体）に移し替える作業を行っていた作業員が、貯蔵タンク上部のマンホール（直径80cm）からタンク内に入ったところ、酸素欠乏により倒れた。救出のため同タンクに入った作業員も倒れた。
6	木材伐出業	60代	午後3時頃、立木の伐採作業を行っていた被災者に同僚が作業終了を告げたが、その後被災者が集合場所に来なかったため、再び同僚が被災者に声を掛けに行ったところ、熱中症により斜面に倒れている被災者を発見した。被災者は病院に搬送されたが、4日後に死亡した。
7	病院	20代	事務職に従事していた被災者が、過重労働による心理的負荷により精神障害を発症し、自宅にて自殺した。
8	道路建設工事業	60代	被災者は、現場事務所から施工場所まで測量器具を徒歩で運んでいたところ、後ろからタイヤローラーが走行してきたため同乗させてもらい、搭乗用ステップに乗り込んだ。約100m走行した地点に段差（約5cm）があり、車体が跳ねた反動で被災者が搭乗用ステップから転落した。
9	バス業	70代	被災者は、会社敷地内でトラックの誘導を行っていたところ、渡り橋の上から4m下の側溝に転落した。
10	橋梁建設工事業	30代	被災者は、コンクリート橋のつり足場の組立作業を行っていたところ、組立中の足場板から約14m下に墜落した。
11	木材伐出業	40代	被災者は木材グラブ機を運転し、私道（幅員2.7m）に倒れている伐倒木を谷側の路肩に寄せていたところ、木材グラブ機が路肩から約60m下に転落した。
12	一般貨物自動車運送業	50代	被災者はフォークローダーを運転し、一人でチップの集積作業を行っていたところ、フォークローダーを後進させた際に岸壁の車止めを越え、海に転落した。
13	その他の建設業	20代	被災者はトラックを運転し、同僚を乗せ塗装工事現場に向かっていたところ、緩やかな左カーブを通過した後ふらつきながら中央線をはみ出し、対向車の大型トラックと正面衝突した。
14	その他の金属製品製造業	40代	製造する鋼管の原料であるコイル（幅10cmの鋼板がドーナツ状に巻かれたもの）置場において、立てて保管しているコイルの倒れ止めを被災者が外したところ、コイル1巻（直径1.64m、厚さ10cm、重量1.52t）が被災者に倒れ、当該コイルと床面との間に挟まれた。
15	道路建設工事業	20代	被災者は2tトラックを運転し、土場から現場に向かっていた。被災者は、片側2車線の緩やかな下りの左カーブで、前方追越車線を走行していたトラックを走行車線から追い越し、追越車線に進入したところ、そのまま中央分離帯を乗り越え対向車2台と衝突し、1.5m下の側道に転落した。